

問われている企業の社会的責任

神奈川県技術士会 環境マネジメントセンター 湖上 国雄

1. はじめに

近年、企業の社会的責任が問われるような事件が頻発しています。これは我が国だけの現象ではないようです。世界をあげて取り組むべき問題になってきているようで、その取り組みの一環として標準ISO規格化の動きも出てきています。企業の社会的責任(以降CSRという)に対する問題意識の程度が問われる時代になってきたのであり、個々の企業がCSRの取り組みを明確に打ち出すことが重要な責務となってきています。

2. 企業の意識

企業の目標は、持続可能な経済社会の形成であり、企業自身を持続可能(sustainable)にするマネジメントシステム及び経営を行うことであるといわれています。特に今世紀には石油資源が枯渇する可能性があり、可採(掘)年数が長い天然ガス(メタンガスが主体)への依存度が高まる傾向にあります。端的に言えば、石油資源は有限であり、充分考えて燃料以外の有機化学製品の原料に使用したいものです。フィルム・電子基板部品・ケース・医療品原料・化粧品容器・衣料等に有用に使って欲しいものです。

3. CSRの基本的考え方

(1) 持続可能性とトリプルボトムラインの考え方

持続可能性を支えるためにはトリプルボトムライン、即ち「経済・社会・環境の三視点」のバランスをとる考え方が基本です。

(2) 歴史的、経済的、文化的背景からくる多様性
歴史的、経済的、文化的背景からくる多様性がその社会の求める価値観、倫理観、社会正義を通じて反映されます。

(3) 自主的取り組みの重要性

CSRは、非常に広い概念であります。従って、CSRの取り組みが企業の中で浸透し、効果を上げるためには、その企業の有する事業、組織、人材、技術等を踏まえ、その企業に合った形で進めていく必要があります。

(4) CSRの基本的考え方

①CSRは、単に理念に留まらずこれを実現するための組織作りを含めた活動の実践、さらにはステークホルダー(利害関係者)とのコミュニケーション等の企業行動を意味します。

②CSRは、企業にとって環境、社会の持続的発展にも通ずる広い意味での投資と考えるべきです。

③CSRの具体的内容は、国や地域の価値観、文化、経済、社会事情により多様であるので、個々の企業の自主的、戦略的な取り組みが重要です。

④国の内外を問わずCSRへの対応についての配慮を求める傾向があることから、企業はグローバルな視点に立ってCSRに取り組む必要があります。

4. 企業にとってのCSRの意義と期待

企業がCSRに取り組むことによる企業の内面的側面(リスク対策によるリスク低減で経営の効率化を図る)と外面的側面(新市場開拓、人材の確保、安全性の確保、企業イメージの構築、ブランド価値向上で、企業評価を押し上げる)による意義は、企業の経営に効果と利益をもたらすことを期待させます。

ここで分かり易い一例としてドイツのスーパーにおけるレジ袋(ポリエチレン、ポリプロピレン袋等)の代わりに丈夫なポリエステル繊維(PET)製買い物袋を持参するプラスチック削減運動を挙げます。ポリレジ袋等プラスチックは石油の塊であり、容積が比較的大きいので、一般廃棄物焼却場では、ゴミの80%程度がポリエチレン袋で覆われているのが見られ、削減の必要性を痛感する人が多いのです。ここで注意したいのは、ポリレジ袋(日本食品の特徴として塩分-NaClが少し付着)はNaClと徐々に数百度に加熱されるので、燃焼の際に微量ダイオキシン類が生成すると云われています。しかしながらわが国では焼却炉に関する法的規制の強化により焼却場付近の人々に対する健康影響に対する不安は収まりつつあります。石油資源の枯渇は、日本においても近い将来買い物袋持参増加をもたらす、ポリ袋の使用削減は石油消費の減少の一助となります。ポリレジ袋の削減は、企業のCSRの問題として考える時、石油資源を持たない我が国にとっては資源節約の一つの解決問題となります。

以上述べてきたように、石油資源の削減は、企業(小売業全て:デパートからスーパー、商店まで)の社会的責任として消費者の協力の下に当然果たされるべき重大目標であり、持続可能な経済社会構築への期待を高めるものであります。